平成 年 月期 決算短信 連絡

上場会社名 株式会社 大林組
コード番号 本場所在都道府県 東京都 本店 大阪府
(UURL)
代表者 代表取締役社長 向笠 慎二
問合せ先 責任者 東京本社総務部長 増田 龍司
本店総務部長 田所 寛士
決算取締役会開催日 平成 年 月 日
米国会計基準採用の有無 無

１・連絡年 月期の連結業績（平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日）

<table>
<thead>
<tr>
<th>売 上 高</th>
<th>営 業 利 益</th>
<th>経 常 利 益</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>百万円</td>
<td>百万円</td>
<td>百万円</td>
</tr>
</tbody>
</table>

2008年 月期

<table>
<thead>
<tr>
<th>売 上 高</th>
<th>営 業 利 益</th>
<th>経 常 利 益</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>百万円</td>
<td>百万円</td>
<td>百万円</td>
</tr>
</tbody>
</table>

注）百万円未満の金額は、切り捨てて表示している。

2・連結財政状態

<table>
<thead>
<tr>
<th>総 資 産</th>
<th>株 主 資 本</th>
<th>株主資本比率</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>百万円</td>
<td>百万円</td>
<td>百万円</td>
</tr>
</tbody>
</table>

注）期末発行済株式数 連結会社数 - 社 持分法適用関連会社数 社

3・連結キャッシュ・フローの状況

<table>
<thead>
<tr>
<th>営業活動によるキャッシュ・フロー</th>
<th>投資活動によるキャッシュ・フロー</th>
<th>財務活動によるキャッシュ・フロー</th>
<th>現金及び現金同等物の期 末 残 高</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>百万円</td>
<td>百万円</td>
<td>百万円</td>
<td>百万円</td>
</tr>
</tbody>
</table>

4・連結範囲及び持分法の適用に関する事項

連結子会社数 社 持分法適用非連結子会社数 - 社 持分法適用関連会社数 社

5・連結範囲及び持分法の適用の異動状況

連結（新規） 社（除外） 社 持分法（新規） 社（除外） 社

2・年度 月期の連結業績予想（平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日）

<table>
<thead>
<tr>
<th>売 上 高</th>
<th>経 常 利 益</th>
<th>当 期 純 利 益</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>百万円</td>
<td>百万円</td>
<td>百万円</td>
</tr>
</tbody>
</table>

参考）株当たる利益当期純利益（通期） 百万円 百万円

上記業績予想に関する事項は、添付資料のページを参照してください。
連績

平成15年度の業績及び平成16年度中間期と通期の業績見通し（概要）

|                         | 15年度実績 [自平成5月1日～自平成6月30日] | 16年度中間期見通し [自平成6月1日～自平成6月30日] | 16年度通期見通し [自平成6月1日～自平成12月31日] |
|------------------------|------------------------------------------|------------------------------------------------|--|------------------------------------------|
| 総売上高               | %                                      | 億円                                      | %                                      | 億円                                      |
| 売上総利益             |                                         |                                           |                                         |                                           |
| 一般管理費             |                                         |                                           |                                         |                                           |
| （人件費）             |                                         |                                           |                                         |                                           |
| （経費）               |                                         |                                           |                                         |                                           |
| 営業利益              |                                         |                                           |                                         |                                           |
| 営業外収益             |                                         |                                           |                                         |                                           |
| 営業外費用             |                                         |                                           |                                         |                                           |
| （金融収支）           |                                         |                                           |                                         |                                           |
| 経常利益              |                                         |                                           |                                         |                                           |
| 特別利益              |                                         |                                           |                                         |                                           |
| 特別損失               |                                         |                                           |                                         |                                           |
| （減損損失）           |                                         |                                           |                                         |                                           |
| （販売不動産評価損）   |                                         |                                           |                                         |                                           |
| （その他）             |                                         |                                           |                                         |                                           |
| 税引前当期純利益      |                                         |                                           |                                         |                                           |
| 税金費用              |                                         |                                           |                                         |                                           |
| 少数株主利益          |                                         |                                           |                                         |                                           |
| 当期純利益            |                                         |                                           |                                         |                                           |

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>平成5月現在</th>
<th>平成6月現在</th>
<th>増減</th>
<th>増減率</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>総資産</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>株主資本</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>1株当たり株主資本</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>有利子負債（PFIを除く）</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>その他プロジェクトファイナンス・ローン</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>有利子負債合計</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>
平成16年5月18日
株式会社 大林組

【単体】
平成15年度の業績及び平成16年度中間期と通期の業績見通し（概要）

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>15年度実績</th>
<th>16年度中間期見通し</th>
<th>16年度通期見通し</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>完成工事高土木建築</td>
<td>% 億円</td>
<td>% 億円</td>
<td>% 億円</td>
</tr>
<tr>
<td>完工工事利益</td>
<td>% 億円</td>
<td>% 億円</td>
<td>% 億円</td>
</tr>
<tr>
<td>不動産等売上高</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>不動産等売上利益</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>総売上高</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>売上総利益</td>
<td>% 億円</td>
<td>% 億円</td>
<td>% 億円</td>
</tr>
<tr>
<td>一般管理費</td>
<td>% 億円</td>
<td>% 億円</td>
<td>% 億円</td>
</tr>
<tr>
<td>業務外収益</td>
<td>% 億円</td>
<td>% 億円</td>
<td>% 億円</td>
</tr>
<tr>
<td>業務外費用</td>
<td>% 億円</td>
<td>% 億円</td>
<td>% 億円</td>
</tr>
<tr>
<td>総常利益</td>
<td>% 億円</td>
<td>% 億円</td>
<td>% 億円</td>
</tr>
<tr>
<td>特別利益</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>特別損失</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>税引前当期純利益</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>税金費 用</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>当期純利益</td>
<td>% 億円</td>
<td>% 億円</td>
<td>% 億円</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>平成16年度受注見通し（単位：億円）</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>中 間 期</td>
</tr>
<tr>
<td>土木</td>
</tr>
<tr>
<td>建築</td>
</tr>
<tr>
<td>不動産事業等</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
</tr>
</tbody>
</table>
１ 企業集団の状況

当グループは、当社及び子会社、関連会社で構成され、その主な事業内容は、建設事業及び不動産事業であり、さらに各々に付帯する事業を行っております。
当グループの事業に係る位置付け及び事業別セグメントの概要は次のとおりであります。

建設事業
当社が建設工事の受注、施工を行っているほか、子会社の大林道路㈱（東証・大証各市場第一部上場）が建設工事の受注、施工を行っております。海外においては、当社及びタイ大林をはじめとする現地法人が、米国、シンガポール、タイ等で建設工事の受注、施工を行っております。
また、専門工事業として子会社の㈱内外テクノスが内装工事及び建築用資材の販売、賃貸を、オーク設備工業㈱が設備工事を、㈱ショックベトン・ジャパンがコンクリートカーテンウォールの製造、施工を行っており、それらの一部は当社が発注しております。
子会社の東洋ビルサービス㈱及び㈱オークビルサービスが建物総合管理業を行っており、その一部は当社及び大林不動産㈱が発注しております。

不動産事業
当社と子会社の大林不動産㈱が不動産の売買、賃貸並びに宅地開発等の開発事業を行っております。

その他事業
子会社の㈱オーシー・ファイナンス、大林ファイナンスインターナショナルがグループ会社の資金調達を含む金融業務を、㈱グリーン開発㈱、宫城グリーン開発㈱、山陽グリーン㈱がゴルフ場の経営を、㈱オーク情報システムがＩＴ関連の事業を行っております。
また、子会社のＰＦＩ神奈川㈱他４社及び関連会社４社がＰＦＩ事業を行っております。当グループは、建設担当企業としてＰＦＩ事業に関与するのを含めず、事業主体となるこれらの特別目的会社に対して適切な範囲で投融資を行っており、事業の中核的役割を担っております。

（注）ＰＦＩ事業は公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う事業手法

事業系統図については、次頁のとおりであります。
構造 HANDLING

<table>
<thead>
<tr>
<th>建設事業</th>
<th>不動産事業</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>連系子会社</td>
<td>連系子会社</td>
</tr>
<tr>
<td>大林道く造業</td>
<td>洋横建設業</td>
</tr>
<tr>
<td>鴨内テクノス</td>
<td>高徳建設業</td>
</tr>
<tr>
<td>交通ビルサービス株</td>
<td>弁護達ビルクリーンサービス</td>
</tr>
<tr>
<td>オーキュウ設備工業株</td>
<td>日本インバイプ株</td>
</tr>
<tr>
<td>油田ショックパー・シヤバン</td>
<td>日本スナップロック株</td>
</tr>
<tr>
<td>油田向け建物</td>
<td>シームレスタイン株</td>
</tr>
<tr>
<td>有限オーツビルサービス</td>
<td>フォレストコンサルタンクト株</td>
</tr>
<tr>
<td>有限アリバイ・ジーインポー</td>
<td>他２社</td>
</tr>
<tr>
<td>ミノル工業株</td>
<td>類似環境サービス株</td>
</tr>
<tr>
<td>相模洋のリサリサ</td>
<td>機械・エルジー</td>
</tr>
<tr>
<td>パークビルサービス株</td>
<td>機械特殊工業株</td>
</tr>
<tr>
<td>土木専業工業株</td>
<td>宮城テクノ・サンプル株</td>
</tr>
<tr>
<td>東洋バイオフラント株</td>
<td>東洋バイオフラント株</td>
</tr>
<tr>
<td>ジャーナル</td>
<td>タイタム</td>
</tr>
<tr>
<td>国際</td>
<td>EWAウエル</td>
</tr>
<tr>
<td>大林ＵＳホールディングス</td>
<td>大林U.Sホールディングス</td>
</tr>
<tr>
<td>台湾大林株</td>
<td>台湾大林株</td>
</tr>
<tr>
<td>機械リバリン</td>
<td>機械リバリン</td>
</tr>
<tr>
<td>ＯＣアイセキココンストラクション</td>
<td>ＯＣアイセキココンストラクション</td>
</tr>
<tr>
<td>大林メディア</td>
<td>大林メディア</td>
</tr>
<tr>
<td>大林U.S</td>
<td>大林U.S</td>
</tr>
<tr>
<td>大林コンストラクション</td>
<td>大林コンストラクション</td>
</tr>
<tr>
<td>大林建設上海</td>
<td>大林建設上海</td>
</tr>
<tr>
<td>他１０社</td>
<td>他１０社</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>不動産事業</th>
<th>増資</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>連系子会社</td>
<td>連系子会社</td>
</tr>
<tr>
<td>大林不動産株</td>
<td>阿蘇ハイランド開発株</td>
</tr>
<tr>
<td>森克リオギエステート</td>
<td>阿蘇サンコール株</td>
</tr>
<tr>
<td>アルミナールエステート</td>
<td>パンコックデベロップメント</td>
</tr>
<tr>
<td>他４社</td>
<td>他４社</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>情報関連</th>
<th>情報関連</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>連系子会社</td>
<td>連系子会社</td>
</tr>
<tr>
<td>連系子会社</td>
<td>連系子会社</td>
</tr>
<tr>
<td>大林不動産株</td>
<td>阿蘇ハイランド開発株</td>
</tr>
<tr>
<td>森克リオギエステート</td>
<td>阿蘇サンコール株</td>
</tr>
<tr>
<td>アルミナールエステート</td>
<td>パンコックデベロップメント</td>
</tr>
<tr>
<td>他４社</td>
<td>他４社</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>その他</th>
<th>その他</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>連系子会社</td>
<td>連系子会社</td>
</tr>
<tr>
<td>オーケンタラプラス株</td>
<td>オーケンタラプラス株</td>
</tr>
<tr>
<td>（有）共産センター</td>
<td>（有）共産センター</td>
</tr>
<tr>
<td>オーケンタラプラス株</td>
<td>オーケンタラプラス株</td>
</tr>
<tr>
<td>オーケンタラプラス株</td>
<td>オーケンタラプラス株</td>
</tr>
<tr>
<td>オーケンタラプラス株</td>
<td>オーケンタラプラス株</td>
</tr>
<tr>
<td>他１０社</td>
<td>他１０社</td>
</tr>
</tbody>
</table>

-2-
2 経営方針

1. 経営の基本方針
長期的な視点に立った会社経営を基本に、経営の効率化と収益力の向上によって、企業価値をより高めていくことを目標としており、その実現を通じて、株主、顧客、従業員、地域社会など、すべてのステークホルダーの信頼と期待に応えられる経営を目指しております。

2. 利益配分に関する基本方針
利益配分につきましては、株主に対し長期にわたり安定した配当を維持することを第一に、財務体質の一層の強化や将来に備えた技術開発、設備投資等を図るための内部留保の充足を勘案の上、業績に応じた利益還元を行うことを基本方針としております。

3. 中期的な経営戦略及び業績目標等
（1）中期的な経営戦略
厳しい経営環境に対処すべく、当社は昨年4月に「優良企業構想」を策定いたしました。同構想では、当社が目指す優良企業の要件として、「高い収益力を持つ」、「常に未来を指向し絶えず成長する」、「しっかりとした品質の仕事をする」、「高い技術力を持つ」、「環境を護る」、「社会的な責任を果たす」、「強い財務体質を持つ」、「人を大切にする」、「常に業績を見直し改善を」の9項目を掲げております。
この9要件のうち、高い収益力を持ち、絶えず成長する企業となることが、とりわけ重要であると考えており、その実現のため、すべてのプロジェクトにおいてコンサルタントエンジニアリングを実践することにより、受注の拡大と利益の向上を図ってまいります。具体的には、リニューアル、環境関連、都市再生、海外の大型工事など、成長が期待される分野や技術力の活かせる分野に積極的な営業を展開するとともに、新たな収益基盤の拡充を図るため、ＰＦＩ事業やエンジニアリング事業、不動産事業、当社の開発技術やノウハウを活かした新規事業などを推進いたします。さらに、全社を挙げて業務改善を進めることにより、品質管理やコストダウン活動の徹底、生産性の向上を図るとともに、財務面においては、保有資産の流動化を進めるなどキャッシュ・フローの向上に取り組んでまいります。
（2）中長期的な業績目標等
中長期的な業績目標としては、平成6年度に連結ベースで営業利益500億円の達成を目標としております。

4. コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方及びその施策の実施状況
当社は、広く社会から信頼される企業となるためには、経営の健全性、透明性を高めることが重要であると考え、コーポレート・ガバナンスに取り組んでおります。
具体的には、株主総会、取締役会、監査役会、会計監査人などの機関は、その法律上の機能を十分に果たしており、これに加えて随時、代表取締役を中心とするメンバーによる経営会議で詳細かつ迅速な意思決定を実現しております。なお、監査役会の独立性を高めるため、本年6月開催の定時株主総会において、監査役5名のうち社外監査役を1名増員し3名とする予定であり、監査機能の強化を図ることにより企業統治の実効性を高めてまいります。
次にコンプライアンスの面では、「企業倫理委員会」を定期的に開催し、企業行動全般について法律及び倫理面からチェックを行うとともに、様々な機会を通じて、当社役員及び従業員の行動指針である「大林組企業行動規範」を社内に周知徹底し、企業倫理の定着に努めております。さらに、「危機管理委員会」を適宜開催し、危機の未然防止体制の整備に努めるとともに、危機発生時には、迅速かつ適切な
株式会社 大 林 組

対応を行うこととしております。なお、本年３月には、危機情報などを役員及び従業員から直接受け付ける相談・通報窓口を設置し、コンプライアンス体制を強化しております。
また、経営の透明性を高めることが重要であるとの認識から、すべてのステークホルダーに対する適時・適切な情報開示に積極的に取り組んでおります。

5．環境問題への取り組み
すべての事業活動を通じて環境への影響に配慮し、その保全に努めることが社会的責任であると考えております。具体的には、建設廃棄物の排出量の削減や再生資源化をはじめ、地球温暖化対策と建物のライフサイクルコスト削減の両面に有効な省エネ技術並びに汚染土壌や水域の浄化など環境関連技術の開発、実用化にも積極的に取り組んでおります。また、当社では、環境会計の公表を通じて対策コストと効果を開示しておりますが、今後も継続的な活動を展開し、環境保全に貢献してまいりたいと考えております。

3．経営成績及び財政状態
1．当期の概況
当期におけるわが国経済は、公共投資は引き続き停滞いたしましたが、個人消費が持ち直しの動きを見せ、企業収益の改善やデジタル関連産業などによる国内投資への回帰を背景に民間設備投資が増加基調で推移するなど、景気は緩やかながらも回復の動きを見せました。

建設業界におきましては、民間工事は製造業を中心に明るさを増しましたが、公共工事の発注が引き続き減少いたしましたので、受注環境は依然として厳しい状況が続きました。
このような状況のもと、当期における連結ベースの業績につきましては、売上高は、前期比100%増の約1兆1,000億円となりました。事業別の売上高は、建設事業約1兆1,000億円、不動産事業約1,000億円、その他事業約1,000億円であり、その構成比は、建設事業100%、不動産事業100%、その他事業100%となっております。また、損益につきましては、工事利益率の改善や有価証券の売却等により、経常利益は前期比100%増の約1,000億円となり、税引き後の当期純利益は約1,000億円となりました。なお、当期から「固定資産の減損に係る会計基準」を早期適用しております。

次に、当社単体の業績につきましては、売上高は、前期比100%増の約1兆1,000億円となりました。その構成比は、建設事業100%、不動産事業等100%となっております。建設事業の内訳は、土木工事100%、建築工事100%であり、このうち海外工事は100%であります。売上高につきましては、前期比100%増の約1兆1,000億円であり、その構成比は、建設事業100%、不動産事業等100%となっております。建設事業の内訳は、土木工事100%、建築工事100%であり、このうち海外工事は100%であります。利益の面では、工事利益率の改善や有価証券の売却等により、経常利益は前期比100%増の約1,000億円となり、税引き後の当期純利益は約1,000億円となりました。

また、株主配当金につきましては、1株当たり年間配当金を前期に比べ2円増額して8円とすべく期末配当金を5円とさせていただく予定です。

2．当期のキャッシュ・フローの状況
連結ベースのキャッシュ・フローにつきましては、営業活動によるキャッシュ・フローが約1,000億円のプラスとなり、投資活動によるキャッシュ・フローは有価証券の売却等により約1,000億円のプラスとなっております。この結果得られた資金を借入金の返済等に充当いたしましたので、当期末における有利子負債の総額は前期末に比べ約1,000億円減少し、約1,000億円となりました。

- 4 -
なお、キャッシュ・フロー指標の推移は以下のとおりです。

<table>
<thead>
<tr>
<th>自己資本比率</th>
<th>平成   03年3月期</th>
<th>平成   03年3月期</th>
<th>平成   03年3月期</th>
<th>平成   03年3月期</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td>%</td>
<td>%</td>
<td>%</td>
<td>%</td>
</tr>
<tr>
<td>時価ベースの自己資本比率</td>
<td>%</td>
<td>%</td>
<td>%</td>
<td>%</td>
</tr>
<tr>
<td>債務償還年数</td>
<td>年</td>
<td>年</td>
<td>年</td>
<td>年</td>
</tr>
</tbody>
</table>

インタレスト・カバレッジ・レシオ |  |  |  |  |

自己資本比率：自己資本 / 総資産
時価ベースの自己資本比率：株式時価総額 / 総資産
債務償還年数：有利子負債 / 営業キャッシュ・フロー
インタレスト・カバレッジ・レシオ：営業キャッシュ・フロー / 利払い

各指標は、いずれも連結ベースの財務数値により算出している。
株式時価総額は、期末株価終値を期末発行済株式数（自己株式控除後）により算出している。
営業キャッシュ・フローは連結キャッシュ・フロー計算書の営業活動によるキャッシュ・フローを使用しており、利払いについては、連結キャッシュ・フロー計算書の利息の支払額を使用している。

3. 当期の主な受注工事
　エスエフ三田開発特定目的会社（仮称）三田三丁目計画
　東急不動産（株）（仮称）大森プロジェクト新築工事
　シンガポール経営大学　シンガポール経営大学新築工事（シンガポール）
　三菱商事（株）（仮称）ダイヤモンドシティ木曽川ショッピングセンター建設工事
　新パックコック国際空港公団　パックコック第2国際空港滑走路他建設工事（タイ）

4. 当期の主な完成工事
　南海電気鉄道（株）なんばパークス建設工事（1期）
　マサチューセッツ道路局　ボストン中央幹線道路C MMA 9工区建設工事（米国）
　三菱商事（株）　東京建物（株）　品川Vタワー建設工事
　日本土地建物販売（株）　トータルハウスシング（株）
　東京ガス（株）　東京ガス扇島工場T L N G地下式貯槽土木工事
　トヨタ自動車（株）　トヨタ自動車技術新設計棟建設工事

5. 次期の見通し
　今後のわが国経済は、民間設備投資を中心として持続的な回復が期待されますが、為替の動向や素材価格の高騰など懸念すべき要因もあり、先行きには予断を許さないものがあります。
　建設業界におきましては、民間工事は引き続き回復基調で推移することが見込まれるもので、公共工事の発注はさらに減少することが予想されますので、依然として激しい受注競争が継続するものと思われます。
通期（平成 30年 3月期）の連結業績につきましては、売上高1兆 3700億円、経常利益 340億円、当期純利益 350億円となる見通しです。

通期（平成 30年 3月期）の当社単体の業績につきましては、受注高1兆 2900億円（うち不動産事業等 2800億円）、売上高1兆 3100億円（うち不動産事業等 3000億円）、経常利益 340億円、当期純利益 340億円となる見通しです。
## 4 連結財務諸表等

（１）連結貸借対照表

<table>
<thead>
<tr>
<th>科 目</th>
<th>当期（平成○○○○現在）</th>
<th>前期（平成○○○○現在）</th>
<th>比較増減（百万円）</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td>金額</td>
<td>構成比</td>
<td>金額</td>
</tr>
<tr>
<td>□資産の部）</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>□不動産</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>現金預金</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>受取手形・完成工事未収入金等</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>有価証券</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>未完成工事支出資金等</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>たな卸不動産</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>延税金資産</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>未収入金</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>その他の資産</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>貸倒引当金</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>流動資産合計</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>□固定資産</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>□有形固定資産</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>建物・構築物</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>機械・運搬具・工具器具・備品</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>土地</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>建設仮勘定</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>有形固定資産合計</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>□無形固定資産</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>□投資その他の資産</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>投資有価証券</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>長期貸付金</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>延税金資産</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>その他の資産</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>貸倒引当金</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>投資その他の資産合計</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>固定資産合計</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>□繰延資産</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>資産合計</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

単位：百万円

-7-
<table>
<thead>
<tr>
<th>科目</th>
<th>当期（平成31年度現在）</th>
<th>前期（平成30年度現在）</th>
<th>比較増減（％）</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td>金額</td>
<td>構成比</td>
<td>金額</td>
</tr>
<tr>
<td>□ 流動負債</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>支払手形・工事未払金等</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>短期借入金</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>一年以内返済のロジ・エクストファイナンス・ローン</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>コマーシャル・ペーパー</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>未払法人税等</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>未成工事受入金等</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>預り金</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>完成工事補償引当金</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>その他の流動負債合計</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>□ 固定負債</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>社債</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>長期借入金</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>ロジ・エクストファイナンス・ローン</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>繰延税金負債</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>土地再評価に係る繰延税金負債</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>退職給付引当金</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>役員退職慰労引当金</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>不動産事業等損失引当金</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>その他の固定負債合計</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>負債合計</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

少数株主持分
資本の部
資本金 |  |  |  |  |  |
資本剰余金 |  |  |  |  |  |
利益剰余金 |  |  |  |  |  |
土地再評価差額金 |  |  |  |  |  |
その他有価証券評価差額金 |  |  |  |  |  |
為替換算調整勘定 |  |  |  |  |  |
自己株式 |  |  |  |  |  |
資本合計 |  |  |  |  |  |
負債、少数株主持分及び資本合計 |  |  |  |  |  |
（２）連結損益計算書

<table>
<thead>
<tr>
<th>科目</th>
<th>当期</th>
<th>前期</th>
<th>比較増減（％）</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td>金額</td>
<td>比率</td>
<td>金額</td>
</tr>
<tr>
<td>売上高</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>売上原価</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>売上総利益</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>販売費及び一般管理費</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>営業利益</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>営業外収益</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>受取利息</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>受取配当金</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>有価証券売却益</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>その他の利益</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>営業外費用</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>支払利息</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>外国為替換算差損益</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>その他の費用</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>経常利益</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>特別利益</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>前期損益修正益</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>固定資産売却益</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>その他の利益</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>特別損失</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>損失</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>販売用不動産評価損</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>転進支援費用</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>投資有価証券評価損</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>不動産評価損</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>その他の損失</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>税金等調整前当期純利益</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>法人税、住民税及び事業税</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>法人税等調整額</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>少数株主利益又は少数株主損失</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>当期純利益</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

単位：百万円
（3）連結剰余金計算書

<table>
<thead>
<tr>
<th>科 目</th>
<th>当 期</th>
<th>前 期</th>
<th>比較増減</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td>金額</td>
<td>金額</td>
<td>金額</td>
</tr>
</tbody>
</table>

【資本剰余金の部】

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>自平成14年3月31日</th>
<th>自平成15年4月1日</th>
<th>比較</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>資本剰余金首残高</td>
<td>41,694</td>
<td>41,694</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>資本剰余金増加高</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>自己株式処分差益</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>資本剰余金期末残高</td>
<td>41,694</td>
<td>41,694</td>
<td>-</td>
</tr>
</tbody>
</table>

【利益剰余金の部】

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>自平成14年3月31日</th>
<th>自平成15年4月1日</th>
<th>比較</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>利益剰余金首残高</td>
<td>22,455</td>
<td>22,455</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>利益剰余金増加高</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>当期純利益</td>
<td>21,193</td>
<td>3,124</td>
<td>18,069</td>
</tr>
<tr>
<td>利益剰余金減少高</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>株主配当金</td>
<td>5,198</td>
<td>25,579</td>
<td>-20,381</td>
</tr>
<tr>
<td>役員賞与金</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>土地再評価差額金取崩額</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>利益剰余金期末残高</td>
<td>20,500</td>
<td>19,643</td>
<td>856</td>
</tr>
</tbody>
</table>

（単位：百万円）
### 連結キャッシュ・フロー計算書

<table>
<thead>
<tr>
<th>科目</th>
<th>期別</th>
<th>当期</th>
<th>前期</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>自平成</td>
<td>前平成</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>至平成</td>
<td>末平成</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>金額</td>
<td>金額</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>営業活動によるキャッシュ・フロー</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>税金等調整前当期純利益</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>減価償却費</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>外経損失</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>貸倒引当金の増加・減少</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>退職給付引当金の増加・減少</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>有価証券・投資有価証券評価損</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>貨幣庫用不動産評価損</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>不動産評価損</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>受取利息及び受取配当金</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>支払利息</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>有価証券・投資有価証券売却損益</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>売上債権の増加・減少</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>未払工事支出金の増加・減少</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>その他債権の増加・減少</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>未払賃借資産の増加・減少</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>期間経過資産の増加・減少</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>その他</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>小計</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>営業活動によるキャッシュ・フロー</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>自平成</td>
<td>前平成</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>至平成</td>
<td>末平成</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>金額</td>
<td>金額</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>投資活動によるキャッシュ・フロー</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>有形固定資産及び無形固定資産の取得による支出</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>有形固定資産及び無形固定資産の売却による収入</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>有価証券及び投資有価証券の取得による支出</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>有価証券及び投資有価証券の売却による収入</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>貸付けによる支出</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>貸付金の回収による収入</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>その他</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>小計</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>投資活動によるキャッシュ・フロー</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>自平成</td>
<td>前平成</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>至平成</td>
<td>末平成</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>金額</td>
<td>金額</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>財務活動によるキャッシュ・フロー</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>短期借入金の純減少額</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>コマーシャル・ペーパーの純増加・純減少 (当) 額</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>長期借入金の返済による支出</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>事業合併による借入金の増加および支払いによる清揚</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>社債家の発行による収入</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>社債家の償還による支出</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>配当金の支払額</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>その他</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>小計</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>財務活動によるキャッシュ・フロー</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>自平成</td>
<td>前平成</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>至平成</td>
<td>末平成</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>金額</td>
<td>金額</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>現金及び現金同等物に係る換算差額</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>現金及び現金同等物の増加・減少</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>現金及び現金同等物の期末残高</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>現金及び現金同等物の期末残高</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

（単位：百万円）
連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項

１．連結の範囲に関する事項
すべての子会社（グループ）を連結している。
主要な子会社名は次のとおりである。
大林道路㈱、㈱内外テクノス、大林不動産㈱、タイ大林、㈱オーシー・ファイナンス、
オーク設備工業㈱
ＰＦＩ近江八幡㈱他５社は新規設立のため、オーク設備工業㈱他２社は株式取得のため、また、タイ大林は支配力基準により関連会社から子会社となったため、当期から連結の範囲に含めている。
なお、テクノフォレスト建設㈱他３社については解散したため、連結の範囲から除外した。

２．持分法の適用に関する事項
すべての関連会社（グループ）について持分法を適用している。
主要な関連会社名は次のとおりである。
洋林建設㈱
ＰＦＩ六本木ＧＲＩＰＳ㈱他２社は新規設立のため、㈱東洋ビルクリーンサービスは株式取得のため、また、ナンタウン丸誠はタイ大林が子会社となったため、当期から持分法を適用している。
なお、タイ大林は子会社となったため、持分法適用の範囲から除外した。

３．連結子会社の事業年度等に関する事項
すべての在外連結子会社（グループ）の決算日は１月３１日である。連結財務諸表の作成にあたっては、同決算日現在の財務諸表を使用している。ただし、１月１日から連結決算日３月３１日までの期間に発生した重要な取引については連結上必要な調整を行っている。上記以外の連結子会社の事業年度は連結財務諸表提出会社と同一である。

４．会計処理基準に関する事項
　（１）重要な資産の評価基準及び評価方法
　　ア．有価証券
　　満期保有目的の債券　満期保有目的の債券　債却原価法（定額法）
　　その他有価証券　時債のあるもの　時債のあるもの　決算期末日の市場価格等に基づく時債法
　　　　　　　　　（時債差額は全部資本直入法により処理し、売却価格は移動平均法により算定している。）
　　時債のないもの　時債のないもの　時債のないもの　時債平均法による原価法
　　イ．デリバティブ　デリバティブ　デリバティブ　時債法
　　ウ．たな卸資産
　　未成工事支出金等　未成工事支出金　未成工事支出金　個別法による原価法
　　　　　　　　　材料貯蔵品　材料貯蔵品　材料貯蔵品　先入先出法による原価法
　　　　　　　　　たな卸資産　たな卸資産　たな卸資産　個別法による原価法
　　（２）重要な減価償却資産の減価償却の方法
　　ア．有形固定資産　当社及び国内連結子会社は主として定率法（ただし、平成　年４月１日以降に取得した建物（建物付属設備を除く。）は定額法）を採用し、在外連結子会社は主として定額法を採用している。
　　　　　なお、耐用年数及び残存価額については、主として法人税法に規定する方法と同一の基準によっている。
　　イ．無形固定資産　定額法を採用している。
なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用している。

重要な引当金の計上基準

ア．貸倒引当金
売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上している。
また、在外連結子会社については、貸倒懸念債権等特定の債権についてその回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上している。

イ．完成工事補償引当金
完成工事に係る瑕疵担保に要する費用に充てるため、当期の完成工事高に対する将来の見積補償額を計上している。

ウ．退職給付引当金
従業員の退職給付に備えるため、期末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上している。
過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（30年）による定額法により償却している。なお、一部の子会社は発生した期に一括で償却している。
数理計算上の差異は、各期の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（30年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生した期又はその後期から償却している。

エ．役員退職慰労引当金
役員の退職慰労金の支出に備えて、内規に基づく期末要支給額を計上している。

オ．不動産事業等損失引当金
不動産の流動化及び不動産関連事業の整理再編を実施することに伴い発生する損失に備えるため、当該損失見込額を計上している。

重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理している。
また、在外子会社等の資産及び負債は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は少数株主持分及び資本の部における為替換算調整勘定に含めている。
なお、在外子会社等の収益及び費用は決算日の直物為替相場により円貨に換算している。

リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっている。

ヘッジ会計の方法

ア．ヘッジ会計の方法

ヘッジ手段とヘッジ相場

ヘッジ方針

デリバティブ取引は社内管理規定に従い、特定の資産及び負債の有する為替変動又は金利変動のリスクを、保有期間を通じて効果的にヘッジする目的で利用している。

エ．ヘッジ有効性の評価の方法

ヘッジ手段とヘッジ対象に関する重要な条件が同一であり、ヘッジ開始時及びその後も継続して
相場変動又はキャッシュ・フロー変動を完全に相殺する取引を行っているため、有効性の判定を省略している。
なお、金利スワップについては、特例処理適用の判定をもって有効性の判定に代えている。

その他連結財務諸表作成のための重要な事項

ア．完成工事高の計上基準

完成工事高の計上は、長期大型工事（工期2年以上かつ請負金20億円以上一部の子会社を除く。）については工事進行基準を、その他の工事については工事完成基準を適用している。また、在外連結子会社については、主として工事進行基準を適用している。

イ．消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税に相当する額の会計処理は、税抜方式によっている。

ウ．固定資産の減損に係る会計基準

固定資産の減損に係る会計基準（「固定資産の減損に係る会計基準の設定に関する意見書」（企業会計審議会　平成　03年8月9日）及び「固定資産の減損に係る会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第6号　平成　03年6月30日）が平成　03年3月31日に終了する連結会計年度に係る連結財務諸表から適用できることになったことにより、当期から同会計基準及び同適用指針を適用している。この結果、従来の方法による場合と比較して、「固定資産」の「有形固定資産」は　0400百万円減少し、税金等調整前当期純利益は同額減少している。
なお、減損損失累計額については、改正後の連結財務諸表書類に基づき各資産の金額から直接控除している。

5．連結子会社の資産及び負債の評価に関する事項

連結子会社の資産及び負債の評価は全部時価評価法によってている。

6．連結調整勘定の償却に関する事項

連結調整勘定は、発生した日に一括償却している。

7．利益処分項目等の取扱いに関する事項

連結剰余金計算書は、期中において確定した利益処分に基づいて作成している。

8．連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅かなリスクしか負わない取得日から3か月以内に償還期限の到来する短期投資からなる。
注記事項
（連結貸借対照表関係）

<table>
<thead>
<tr>
<th>当期</th>
<th>前期</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>（百万円）</td>
<td>（百万円）</td>
</tr>
</tbody>
</table>

1. 有形固定資産の減価償却累計額
2. 投資有価証券のうち関連会社に対する株式及び出資金
3. 「土地の再評価に関する法律」（平成 20年法律第 88号）に基づき、事業用土地の再評価を行い、「土地再評価差額金」を資本の部に計上している。

再評価の方法
「土地の再評価に関する法律施行令」（平成 20年政令第 88号）第 2条第１号に定める標準地の公示価格に合理的な調整を行って算定する方法と、同条第５号に定める不動産鑑定士による鑑定評価を併用している。

再評価を行った年月日
平成 22年 3月 31日
再評価を行った土地の当期末における時価と再評価後の帳簿価額との差額

4. 担保資産及び担保付債務

<table>
<thead>
<tr>
<th>資産</th>
<th>建物・構築物</th>
<th>関連会社に対する有価証券</th>
<th>工業性資産</th>
<th>工具器具</th>
<th>備品</th>
<th>不動産</th>
<th>短期貸付金</th>
<th>長期貸付金</th>
</tr>
</thead>
</table>

上記に対応する債権

<table>
<thead>
<tr>
<th>債務</th>
<th>短期借入金</th>
<th>長期借入金</th>
</tr>
</thead>
</table>

5. 偶発債務

6. 受取手形裏書譲渡高

7. 当社の発行済株式総数

8. 連結会社の保有する自己株式数

9. 「一年以内返済のＰＦＩプロジェクトファイナンス・ローン」及び「ＰＦＩプロジェクトファイナンス・ローン」は、連結子会社でＰＦＩ事業のために設立した特別目的会社が、当該ＰＦＩ事業を担保とするノンリコースローンとして金融機関等から調達した借入金である。
当期
（百万円）

前期
（百万円）

1. 連結子会社でＰＦＩ事業のために設立した特別目的会社の売掛債権等の資産が以下の科目に含まれている。

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>当期</th>
<th>前期</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>受取手形・完成工事未収入金等</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>たな卸不動産</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>建設仮勘定</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

(連結損益計算書関係)

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>当期</th>
<th>前期</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1. 工事進行基準による完成工事高</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>2. 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>従業員給料手当</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>退職給付費用</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>調査研究費</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>3. 研究開発費の総額</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

4. 減損損失

当期において、当グループは以下の資産について減損損失を計上した。

<table>
<thead>
<tr>
<th>用途</th>
<th>件数</th>
<th>種類</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>ゴルフ場</td>
<td>4件</td>
<td>建物及び土地等</td>
</tr>
<tr>
<td>賃貸事業用不動産</td>
<td>2件</td>
<td>土地</td>
</tr>
<tr>
<td>遊休不動産</td>
<td></td>
<td>建物及び土地等</td>
</tr>
</tbody>
</table>

減損損失を認識したゴルフ場に係る資産、賃貸事業用不動産及び遊休不動産については、それぞれ個別の物件毎にグルーピングしている。

近年の予想し得ない不動産価格の下落や、ゴルフ場事業の業況の急激な悪化により、上記の資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減額額を減損損失（百万円）として特別損失に計上した。
その内訳は、建物 0百万円、構築物 0百万円、機械装置 0百万円及び土地 0百万円である。

なお、当該資産の回収可能価額は正味売却価額と使用価値のいずれか高い価額とした。正味売却価額は、不動産鑑定評価基準に基づいて算定した見積価額から処分費用見込額を差し引いて算定し、使用価値は将来キャッシュ・フロー見積額を xx％で割り引いて算定している。
（連結キャッシュ・フロー計算書関係）

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>当期（百万円）</th>
<th>前期（百万円）</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>現金預金勘定</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>預入期間が３か月を超える定期預金</td>
<td>0 00000</td>
<td>0 00000</td>
</tr>
<tr>
<td>現金及び現金同等物</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>
セグメント情報

### 事業の種類別セグメント情報

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>建設事業</th>
<th>不動産事業</th>
<th>その他事業</th>
<th>計</th>
<th>消去又は全社</th>
<th>総計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>売上高及び営業損益</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>銀行顧客に対する売上高</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>セグメント間の内部売上高</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>又 は 振替高</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>営業費用</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>営業利益</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

### 資産、減価償却費及び资本的支出

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>建設事業</th>
<th>不動産事業</th>
<th>その他事業</th>
<th>計</th>
<th>消去又は全社</th>
<th>総計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>資産</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>減価償却費</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>減損損失</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>資本的支出</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

前 期  |  | | | | | |

### 借入負債情報

### 事業区分の方法

事業の種類、性質の類似性等の観点から事業区分を行っている。

### 各事業区分に関する主要内容

<p>| | |</p>
<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th></th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>建設事業</td>
<td>土木、建築その他建設工事全般に関する事業</td>
</tr>
<tr>
<td>不動産事業</td>
<td>不動産の売買、仲介及び賃貸に関する事業</td>
</tr>
<tr>
<td>その他事業</td>
<td>金融業、ゴルフ場事業、P F I事業他</td>
</tr>
</tbody>
</table>

株式会社 大 林 組
所在地別セグメント情報

当期  [自 平成 〇〇 月 至 平成 〇〇 月]
全セグメントの売上高の合計及び全セグメントの資産の金額の合計額に占める「本邦」の割合が、いずれも10%を超えているため、所在地別セグメント情報の記載を省略している。

前期  [自 平成 〇〇 月 至 平成 〇〇 月]
全セグメントの売上高の合計及び全セグメントの資産の金額の合計額に占める「本邦」の割合が、いずれも10%を超えているため、所在地別セグメント情報の記載を省略している。

海外売上高

当期  [自 平成 〇〇 月 至 平成 〇〇 月]
海外売上高が連結売上高の80%未満であるため、海外売上高の記載を省略している。

前期  [自 平成 〇〇 月 至 平成 〇〇 月]

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>アジア</th>
<th>北米</th>
<th>その他の地域</th>
<th>合計</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>海外売上高</td>
<td>39,371</td>
<td>5,563</td>
<td>114,725</td>
<td>154,725</td>
</tr>
<tr>
<td>連結売上高</td>
<td>1,341,003</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>連結売上高に占める売上高の割合</td>
<td>10%</td>
<td>3.9%</td>
<td>0.4%</td>
<td>11.5%</td>
</tr>
</tbody>
</table>

（注）国又は地域の区分の方法は、地理的近接度によっており、区分に属する主な国又は地域は以下のとおり。
- アジア : シンガポール、タイ、台湾
- 北米 : 米国
- その他の地域 : 英国、オランダ、オーストラリア

海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高である。

リース取引

EDINETにより関係を行うため記載を省略している。

関連当事者との取引

該当なし。
税効果会計
（百万円）
続延税金資産及び続延税金負債の発生の主な原因別の内訳

<table>
<thead>
<tr>
<th>項目</th>
<th>額</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>減損損失</td>
<td>111,877</td>
</tr>
<tr>
<td>退職給付引当金</td>
<td>104,090</td>
</tr>
<tr>
<td>販売用不動産評価損</td>
<td>71,678</td>
</tr>
<tr>
<td>繰越欠損金</td>
<td>6,966</td>
</tr>
<tr>
<td>貸倒引当金</td>
<td>12,131</td>
</tr>
<tr>
<td>たな卸資産未実現利益</td>
<td>23,649</td>
</tr>
<tr>
<td>役員退職慰労引当金</td>
<td>70,791</td>
</tr>
<tr>
<td>そのの他</td>
<td>1,339</td>
</tr>
<tr>
<td>繼延税金資産小計</td>
<td>111,877</td>
</tr>
<tr>
<td>評価性引当額</td>
<td>7,786</td>
</tr>
<tr>
<td>繼延税金資産合計</td>
<td>104,090</td>
</tr>
</tbody>
</table>

繰延税金負債

<table>
<thead>
<tr>
<th>項目</th>
<th>額</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>その他有価証券評価差額金</td>
<td>23,649</td>
</tr>
<tr>
<td>固定資産圧縮積立金</td>
<td>452</td>
</tr>
<tr>
<td>そのの他</td>
<td>435</td>
</tr>
<tr>
<td>繰延税金負債合計</td>
<td>23,649</td>
</tr>
</tbody>
</table>

繰延税金資産の純額

（注）繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下項目に含まれている。

- 流動資産 - 繰延税金資産
- 固定資産 - 繰延税金資産
- 固定負債 - 繰延税金負債

上記の他、土地再評価に係る繰延税金負債が 70,791百万円ある。
有価証券

1. 満期保有目的の債券で時価のあるもの

<table>
<thead>
<tr>
<th>種類</th>
<th>当期（平成20年度現在）</th>
<th>前期（平成19年度現在）</th>
<th>連結貸借対照表計上額</th>
<th>時価</th>
<th>差額</th>
<th>連結貸借対照表計上額</th>
<th>時価</th>
<th>差額</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>國債・地方債等</td>
<td>〇</td>
<td>〇</td>
<td>〇</td>
<td>〇</td>
<td>〇</td>
<td>〇</td>
<td>〇</td>
<td>〇</td>
</tr>
<tr>
<td>他</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>〇</td>
<td>〇</td>
<td>〇</td>
<td>〇</td>
<td>〇</td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>〇</td>
<td>〇</td>
<td>〇</td>
<td>〇</td>
<td>〇</td>
<td>〇</td>
<td>〇</td>
<td>〇</td>
</tr>
</tbody>
</table>

2. その他有価証券で時価のあるもの

<table>
<thead>
<tr>
<th>種類</th>
<th>当期（平成20年度現在）</th>
<th>前期（平成19年度現在）</th>
<th>連結貸借対照表計上額</th>
<th>時価</th>
<th>差額</th>
<th>連結貸借対照表計上額</th>
<th>時価</th>
<th>差額</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>株式</td>
<td>〇</td>
<td>〇</td>
<td>〇</td>
<td>〇</td>
<td>〇</td>
<td>〇</td>
<td>〇</td>
<td>〇</td>
</tr>
<tr>
<td>他</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>〇</td>
<td>〇</td>
<td>〇</td>
<td>〇</td>
<td>〇</td>
</tr>
<tr>
<td>計</td>
<td>〇</td>
<td>〇</td>
<td>〇</td>
<td>〇</td>
<td>〇</td>
<td>〇</td>
<td>〇</td>
<td>〇</td>
</tr>
</tbody>
</table>

3. 売却した満期保有目的の債券

<table>
<thead>
<tr>
<th>種類</th>
<th>売却原価</th>
<th>売却額</th>
<th>売却損益</th>
<th>種類</th>
<th>売却原価</th>
<th>売却額</th>
<th>売却損益</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>国債</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>国債</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
</tbody>
</table>

売却の理由

連結子会社の㈱ナカノエステートが平成20年6月1日付で解散したことに伴い、保有していた当該債券を売却した。
4 売却したその他有価証券

<table>
<thead>
<tr>
<th>売却額</th>
<th>前期</th>
<th>当期</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>売却益の合計額</td>
<td>前期</td>
<td>当期</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>売却損の合計額</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

5 時価評価されていない主な有価証券の内容及び連結貸借対照表計上額

<table>
<thead>
<tr>
<th>満期保有目的の債券</th>
<th>前期</th>
<th>当期</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>非上場外国債券</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>その他有価証券</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>非上場株式（店頭売買株式を除く）</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>非上場優先出資証券</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

6 その他有価証券のうち満期があるもの及び満期保有目的の債券の今後の償還予定額

<table>
<thead>
<tr>
<th>債券</th>
<th>1年以内</th>
<th>1年超</th>
<th>5年超</th>
<th>10年超</th>
<th>1年以内</th>
<th>1年超</th>
<th>5年超</th>
<th>10年超</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>国債・地方債等</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>社債</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>その他</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
<td>-</td>
</tr>
</tbody>
</table>
デリバティブ取引

当期　【自 平成 ㉖年 1月1日 至 平成 ㉖年 12月31日】
デリバティブ取引は全てヘッジ会計を適用しているため記載を省略している。

前期　【自 平成 ㉖年 1月1日 至 平成 ㉖年 12月31日】
デリバティブ取引は全てヘッジ会計を適用しているため記載を省略している。

退職給付

1. 採用している退職給付制度の概要
当社及び国内連結子会社は、確定給付型の制度として、適格退職年金制度及び退職一時金制度を採用している。
当社は、退職一時金制度に併せて昭和 二〇年 3月1日から従業員の一部（定年退職者）に対する退職給与の ±％相当額について適格退職年金制度を採用してきたが、法令の改正によって同制度が廃止されることに伴い、平成 二〇年 4月1日から確定給付企業年金法に基づく規約型企業年金制度に移行している。

2. 退職給付債務に関する事項

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>当期</th>
<th>前期</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>イ．退職給付債務</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>ロ．年金資産</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>ハ．未積立退職給付債務（イ＋ロ）</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>ニ．未認識数理計算上の差異</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>ホ．未認識過去勤務債務（債務の減額）</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>ヘ．連結貸借対照表計上額純額（ハ＋ニ＋ホ）</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>ト．前払年金費用</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>チ．退職給付引当金（ヘ・ト）</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

（注）退職給付債務の算定にあたり、連結子会社のうち大林道路㈱及びオーク設備工業㈱は原則法を、その他の連結子会社は簡便法を採用している。

3. 退職給付費用に関する事項

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>当期</th>
<th>前期</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>イ．勤務費用</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>ロ．利息費用</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>ハ．期待運用収益</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>ニ．数理計算上の差異の償却額</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>ホ．過去勤務債務の償却額</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>ヘ．臨時に支払った割増退職金</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>ト．退職給付費用（イ＋ロ＋ハ＋ニ＋ホ＋ヘ）</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

（注）簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は、「イ．勤務費用」に計上している。
4．退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>当期期</th>
<th>前期期</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>イ．退職給付見込額の期間配分方法</td>
<td>期間定額基準法</td>
<td>同左</td>
</tr>
<tr>
<td>ロ．割引率</td>
<td>0.00%</td>
<td>0.00%</td>
</tr>
<tr>
<td>ハ．期待運用収益率</td>
<td>0.00%</td>
<td>0.00%</td>
</tr>
<tr>
<td>二．過去勤務債務の額の処理年数</td>
<td>同左</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>他．数理計算上の差異の処理年数</td>
<td>同左</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>